第６回大曲地域協議会　会議録

と　き　平成 19 年 12 月 21 日(金)18：30～
ところ　市役所３階　大会議室

出席委員(11 名)
伊藤辰雄　伊藤八重子　加賀谷早苗　小松末五郎　鈴木建一　高橋幸子　高橋祥一
竹村信雄　判田勝補　藤谷弘志　渡部淳一

欠席委員(5 名)
大賀賢子　田中智子　中野和幸　挽野実之　山下榮敏

１　開会　地域協議会会長　伊藤辰雄

２　会長あいさつ　地域協議会会長　伊藤辰雄

３　協議会成立報告
委員の２分の１以上の出席があり、会議が成立する旨を報告

４　会議録署名委員の指名
大曲地域協議会運営規則第７条第２項により議長が、小松委員･鈴木委員を指名。

５　報告　第１号　平成 19 年度地域枠予算について（北野主幹説明）
継続審査となっていた地域枠予算分類Ⅲ型「レッツみなみ」だが、12 月 14 日で全事業を終了したため、申請を取り下げると連絡があった。

伊　藤　議　長　申請者から取り下げということで協議の必要はない。

６　議事　第１号　大曲地域振興計画の策定について:ワークショップ（今野主任進行）
ⅰ）アイスブレーキング【部屋の４隅】　キーワードは『お互いを知る』
３つの質問に対する答えを４つ設け、参加者は、自分が正しいと思う答えに応じて、部屋の隅に移動する。

ⅱ）ゴールの設定

①前回考えていただいた「目指すべき方向性（理想）」から全体のテーマを決める。 ②「目指すべき方向性（理想）」を実現するための、具体案（事業や施策）を考えていただく。

ⅲ）「目指すべき方向性（理想）」の発表　※前回までの復習

各グループ3分を目処に、どのような経緯で方向性を決めたかを発表する。

小　松　委　員　協議会の在り方について、グループ討議は大変結構。グループで課題の掘り起こしをしたが、誰が提案したのか分からない。提案者の考え方等の説明が足りないまま別の方向に進んだ場合、不信感を覚えるのではないか。グループ討議をするのなら、グループ内に提案者が入って、思いを語ってから進めるべきではないか。このままではまとまりがつかない気がしてならない。委員として、責任ある立場で参加しているつもりだ。あやふやなまま、人の出した意見を話しあっていくとなると委員から消えざるを得ないとまで考えた。もう少し分かりやすく、1 つのテーマを掘り起こして討議していくのが本来のやり方ではないか。次回、提案者の意見を求める場があるようだ。私の率直な気持ちを申し上げた。分かりやすい文章でまとめてもらえれば。1 つのテーマを設け、掘り下げていく方が良いのではないか。

今　野　主　任　他の方はどう思っているか？

藤　谷　委　員　今の意見は本音が出ていて私もその通りと思う。が、計画策定の終盤に来ているのでこのやり方でやるしかないと思う。自分の専門ではない課題にもグループで責任を持って自分の意見と置き換えてやる。後で他のグループの発表を聞いて自分の提案した事項が出てこなければ意見を出すようにしたいと思う。臨機応変に良い物は良い物として取り上げてもらった方が、この会議がもっと良くなるのではないか。

鈴　木　委　員　最終的な落としどころはどこ？

今　野　主　任　落としどころはないと考えている。

鈴　木　委　員　最終的なゴールを決め、具体案を出してそれで終わりということか？

今　野　主　任　はい

藤　谷　委　員　我々は専門分野の代表としてこの会議に臨んでいる。グループそれぞれのテーマに沿って配置されたと思っている。勉強会や研修ではない。与えられたテーマに沿って参加しているので、結論が残らないとなると小松委員のおっしゃる通りだ。私は、普通のワークショップとは違うと良い方に解釈して参加している。

小　松　委　員　今日は予定通りやっていただきたい。ただ、家に帰ってからそれぞれ今一度考えて欲しい。

伊　藤　議　長　私も小松委員の気持ちが分かる。私は全部の項目に書いたので他のグループがどうなっているのか気になる。全体が出てきた時、発表を聞いて意見が汲まれているか確認したいと思う。

北　野　主　幹　ワークショップ自体、今回で終了する。1 月の協議会では、全体会議として内容のすり合わせをしたいと考えているので御理解いただきたい。

藤　谷　委　員　そこが一番大事。充分理解出来た。

ⅳ）グループ討議：全体テーマを考える

花ドン、ブルーノ・タウト、ひめがみのグループに分かれ、「目指すべき方向性（理想）から、全体のテーマとなるキーワードを見つける。キーワードが見つかったら、テーマをグループで考える。

※3 グループ全ての「目指すべき方向性（理想）」からキーワードを見つけて、全体のテーマを考える。

※全体テーマは、グループで最終的に 2 つ以内に絞ること。

グループ①：花ドン
伊藤辰雄★　小松末五郎　藤谷弘志／職員：大友重俊　大沼奈々
グループ②：ブルー・ノ・タウト
伊藤八重子　鈴木建一　高橋幸子　判田勝補　渡部淳一／職員：今野幸喜★
グループ③：ひめがみ
加賀谷早苗★　高橋祥一　竹村信雄／職員：北野悟　高橋一平
※★印はグループの進行役

ⅴ）テーマの発表

各グループ約 3 分を目処に、どのような経緯でテーマを決めたかを発表する。

花ドングループ　発表者：大沼奈々（事務局）
　2 票　健やかで希望に満ちたふれあいのまちづくり
　1 票　元気なまちは市民総参加で！

ブルーノ・タウトグループ　発表者：高橋幸子さん
　5 票　活き活きと希望を持って活躍できるまちづくり

ひめがみグループ　発表者：加賀谷早苗さん
　1 票　つなぐ手と手のあたたかさ　ともに豊かなふるさと大曲
　2 票　手と手をつなぎ　みんなでつくる理想郷大曲

vi）テーマを決定

各自、大曲地域振興計画のテーマとして、ふさわしいと思うものを決める。

※委員全体で投票　過半数に満たなかった場合は上位２ つで決算投票を行う。投票の結果、ブルーノ・タウトグループの「活き活きと希望を持って活躍できるまちづくり」が一番多く票を獲得した。

しかし、施策の柱と全く同じであるため、それを踏まえ再投票することにした。

0 票　健やかで希望に満ちたふれあいのまちづくり

☆☆☆4 票　元気なまちは市民総参加で！

1 票　笑顔と元気の出るまちづくり

2 票　活き活きと希望を持って活躍できるまちづくり

0 票　つなぐ手と手のあたたかさ　ともに豊かなふるさと大曲

2 票　手と手をつなぎ　みんなでつくる理想郷大曲

vii）グループ討議：具体案を考える

「目指すべき方向性」を実現するための具体案を考えてもらう。

※具体案がまとまったらグループ毎に、模造紙に書き出してもらう。

※自分のグループが出した「目指すべき方向性」を主体にして具体案を考える、余裕がある場合は、他のグループについても考える。

viii）ふりかえり

最後に今回のワークショップを終えての、自分なりの反省をふりかえりシートに記入していただき、3 名より発表していただいた。

大沼（事務局）　テーマ選定に思いの外、時間がかかった。
グループ選定、ある程度希望を取るべきだったと反省している。

鈴　木　委　員　チームワークが良かった。資料を忘れてきたのを反省している。

竹　村　委　員　テーマを考えたがまとまりがないと感じている。最後は皆さんの意見をまとめて合体させたので個性がないとも感じている。
機会を得て意見を出し合うのは良いことだと思う。

伊　藤　議　長　ワークショップそのもの、テーマの捉え方についての意見が出た。私自身はそのままスーッと入ってしまうが、そういう風に感じているんだなぁと分かって良かった。本音が出てきたことと思う。コの字型の会議ではそこまで出なかった。やった成果が出てきたと思う。やりながら考え、反省点をきちんと活かしていくことが大事。会議に臨むに当たって、気持ちを高ぶらせ意欲を持って参加しているんだなぁと感じた。会議に向かう姿勢も変わってきている。

７　その他

大　友　参　事　次回は1月19日(土)15時から17時まで協議会、17時頃から「福芳」で新年会を開催する。会費を3,000円徴収いたしたい。次回案内と一緒に出欠確認したい。

伊　藤　議　長　それでは、時間となりましたので、今日の会議を終了いたします。皆様お疲れまでした。

終了時間　21:00

以上は、会議の内容を記したものであり、相違ないことを証するために下記に署名する。

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

議事録署名人＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿